

1. 広島土砂災害の被害状況と地場業者としての使命感

2014年8月20日未明から明け方にかけての豪雨により広島市安佐南区、安佐北区、西区の住宅地を中心に土石流107箇所、がけ崩れ59箇所の土砂災害が発生し、77名の尊い命が失われ、また多数の家屋が大きな被害を受けました。

当社は、災害発生の日から被災地に入り土砂撤去の応急復旧工事、砂防堰堤を建設するための進入路工事、鳥越川1号砂防堰堤を始めとする6基の砂防堰堤、流路工、管理用道路などの工事を10年間継続してきました。

災害直後の応急復旧工事に携わった社員が、「視界一面に濁水が流れ、流木と土石流が民家をなぎ倒した状況を目の当たりにし、想像をはるかに超えた被害の大きさに足がすくんだ」、「未曾有の災害に対する危機管理意識を国民全員に周知する仕組みが必要」、「早期砂防事業による土石流地域のリスクを緩和した安全な住宅地域の構築を熱望」といった感想を述べています。そして、当社は緑井地区の最も規模の大きい「鳥越川1号砂防堰堤工事」に携わり、緑井地区の安全性の早期向上が地場業者の使命と考え、砂防工事に携わると共に、地域の方々と共に砂防堰堤を活用した復興支援（広報活動等）の取組みを行ったので、その一部を紹介します。



写真1 広島土砂災害の状況 広島市安佐南区
緑井八丁目付近の被災状況（市道が流出）

（写真：国土交通省 広島西部山系砂防事務所提供）

2. 鳥越川1号砂防堰堤での「願い石」

2015年6月の鳥越川1号砂防堰堤の工事説明会を発注者とともにに行い、出席された方々に、メッセージを現地の石に書いてもらいました。石には「がんばろう緑井」、「復興祈願」、「二度と災害が起らないことを願ってます」といったメッセージを頂き、改めて緑井地区の早期復興に尽力することを誓いました。

そして2016年2月に願いをこめられたメッセージ入りの石を鳥越川1号砂防堰堤の骨材の一部に使用しました。



写真2 願い石作成の様子

（写真：国土交通省 広島西部山系砂防事務所提供）

3. 土石流を捕捉した鳥越川1号砂防堰堤

2021年8月の記録的な大雨により再び土砂災害が発生しました。この時広島土砂災害の緊急事業として実施していた鳥越川1号砂防堰堤が完成しており、土石流を約4,500m³捕捉し、下流域の被害を未然に防止し、砂防堰堤の効果を発揮しました。



写真3 鳥越川1号砂防堰堤（土石流の捕捉前後）
（写真：国土交通省 広島西部山系砂防事務所提供）



写真4 土石流を捕捉し、下流域の
住家を守った鳥越川1号砂防堰堤
（写真：国土交通省 広島西部山系砂防事務所提供）

4. 小学生への現場学習会

現場の見学会では、地域の方々に土砂災害や砂防施設の働きなどの説明を行いました。特に、小学校からは児童の現場での授業として当社に依頼されるようになり、毎年継続して現場学習会を開催しました。

現場学習会では、地域の将来を担っている小学生に自然災害に関する知識と防災意識の向上、さらに建設業の魅力発信を目指して取り組みました。また、小学5年生の児童が1回に100名～120名も参加するため、現場の社員だけでなく本社の社員も動員し、会社上げての現場学習会としました。そして、一人一人に小学生用の教本として当社で作成した「現地学習ノート」を渡し、「砂防堰堤のはたらき」などをクイズ形式で説明したり、「土壌改良や真砂土の特徴」、「土石流」についての実験、写真パネルでの説明や土石流を補足した土砂撤去の動画をモニターに映し説明を行ないました。



写真-5 梅林小学小学校 現場見学会 (H28.5)



写真-6 現場学習会 (R5.5)



写真-7 土石流模型実験による学習

5. ライトアップ・イルミネーション

2014年8月広島土砂災害が発生してから10年目の節年を迎える2024年にあたり、土砂災害で犠牲となられた方々への追悼と復興事業のシンボルとなることを祈念して、緑井地区の砂防堰堤の象徴とも言える鳥越川1号砂防堰堤のライトアップを2023年12月20日～2024年1月8日の間で、実施することにしました。



写真-8 鳥越川1号砂防堰堤のライトアップとイルミネーション

これらの企画を女性技術者に担当してもらい様々な色に変化するLED投光器を使用し、堰堤の壁面をライトアップしました。また、堰堤下流の広場にクリスマスツリーをイルミネーションとして飾り付けしました。

砂防堰堤のライトアップについては、好評につき2月末まで延期しました。

6. 「8. 20 緑井上組町内会 慰霊式」での取り組み

緑井の上組町内会では2014年8月の広島土砂災害から毎年慰霊式を鳥越川1号砂防堰堤下流の広場で行っており、当社も広島土砂災害の応急工事から緑井地区での砂防工事を昨年度まで毎年継続して携わっており、慰霊式のイベント支援も毎年行ってきました。2024年度は緑井地区での工事がなくなったため、当社は緑井地区から撤退しましたが、2024年6月に上組町内会から、広島土砂災害から10年目の節年に当たる2024年8月の慰霊式について当社に相談があり、砂防堰堤の壁面に慰霊の文字の投影、堰堤の着工から完成までの記録写真や令和3年豪雨による土石流を砂防堰堤で補足した写真などを2台のモニターでスライド上映するなどの支援を行うこととなりました。



写真-9 砂防堰堤への文字投影

2024年8月20日の慰霊式では、プロジェクトマッピング(PM)の技術を使い、砂防堰堤の壁面に災害の記憶を風化させず、未来へ伝えていくメッセージとして「8.20土砂災害忘れない」、「8.20土砂災害」、「忘れない」の3パターンの文字を繰り返し投影しました。(写真—9)

また、小学生が土砂災害に対する想いを文字や絵として描き(写真—10)、それを灯籠として約200個作成し(写真—11)、8.20の形に浮かび上がらせました。(写真—12)そして最後に追悼の願いを込めて、子どもたちが手持ち花火を行いました。(写真—13)

当社は、今回の慰霊式も地域の行事の支援として参加しましたが、国土交通大臣政務官、広島市長、国土交通省 広島西部山系砂防事務所の事務所長とともに当社社長が来賓として招かれ、地域の守り手としての使命として、災害発災当初から10年間緑井地区の復旧・復興に尽力してきたことを挨拶しました。そして、地域のたくさんの方々から当社へ10年間の労いの感謝の言葉を頂きました。

また、広島土砂災害から10年目の節年でのイベントともあって、各新聞及びテレビにより当社の砂防堰堤へのプロジェクトマッピングによる文字の投影についても報道されました。

7. おわりに

2024年5月には現場事務所が緑井地区から撤退していたにもかかわらず、広島土砂災害から10年目の2024年8月20日の慰霊式で砂防堰堤に文字を投影しました。これは“災害を風化させない”、“災害を若い世代に語り継ぐ”という地域の方の強い思いがありました。

当社は、2014年8月20日の発災翌日から現地に入ったからこそ、緑井地区の災害から早期の復旧・復興を強く願い、10年間継続して緑井地区の砂防事業に携わってきました。これは、地場の建設会社としての社会的な責任を果たしていると自負しております。

災害直後に被災した家が次々と再構築され、中には緑井地区以外から引っ越して来られる方、災害当時のことを知らない年代が増えてきています。被災した方々の願いである“災害を若い世代に語り継ぎ、風化させない”ことを念頭に広報活動としての現地学習会など、内容を工夫し取組み、地域の方と共に歩んできた10年間でした。

今回の2024年8月20日の慰霊式では、緑井地区の方々、広島土砂災害伝承館の館長などたくさんの方々から当社に対して感謝の意を述べられました。これは、単に慰霊式の支援を行ったことだけでなく、10年間の当社の活動に対する感謝でした。

地域の方々から感謝を述べられることが何よりも代え難い仕事のやりがいに繋がります。今後も地域の守り手として、安全・安心、地域の発展に貢献するとともに建設業全体のイメージアップに取り組んでいく所存です。



写真—10 小学生の願い



写真—11 小学生の願いを描いた灯籠



写真—12 灯籠による文字



写真—13 子どもたちによる花火